

## 特集

涅槃会 お釈迦様のお亡くなり

# お釈迦様の最後の教え



東京・光輪幼稚園園長

高輪 真澄

特集

一年のうち、お釈迦様に感謝する日として、「三  
仏忌」と言われる日があります。一つ目は「はな  
まつり」(四月八日)お釈迦様のお誕生をお祝いす  
る集い。二つ目は「成道会」(十二月八日)お釈迦  
様がおさとりになられたことをお祝いする集い。  
そして三つ目が「涅槃会」(二月十五日)この日に  
亡くなられたお釈迦様に感謝する集いです。  
「涅槃会」の涅槃とは、インドの古い言葉「サン  
スクリット語」の「ニルヴァーナ」の音写です。  
「迷いの火が吹き消された状態」。それは私たちの  
心の中で煩惱と言われる欲望や嫉妬心などがメラ  
メラと燃え上がっているとき、強い風が吹いてき  
て、それがあつという間に吹き消されてしまっ  
これと同じように、私たちがすべての苦しみから  
解き放たれた状態のことを言います。そして意味  
が転じて、お釈迦様が亡くなられたことも意味す

## ●造形活動を通して豊かな感性を育む

当園では毎年11月に絵画制作展を開催して、全園児の作品を保護者や地域の方々に鑑賞していただいています。

みな様から高い評価をいただいていることから、全国展などへも出品し、沢山の賞もいただき、園児の自信と意欲に繋がっています。

ここで造形表現について述べてみたいと思います。

本来、子どもは絵を描いたり物を作ったりすることが大好きです。そしてこれらは、幼児が育つために欠くことのできないものです。子どもの造形性は、子どもの自主的で集中的表現活動を通しての  
み育ち得るものであると考えています。

子どもの造形活動の発展段階を見ると、

1. ぬたくり期、こねくり・いじくり期
2. 象徴期
3. 前図式期
4. 図式期

となっています。

当園では、すべての園児をフィードバックして、第1期のぬたくり期の体験をすることにしています。

6月の暖かくなった頃、トラック一杯の土粘土を近くの山の採石場から取り寄せ、裸になって全身でどろんこ遊びをします。更に、フィンガー・ペインティングも両手描きから始め、思いっきり楽しめます。

こういった五感を通した全身遊びには、開放感、自由感、安心感があり、情緒が安定してきます。

心、頭、手の三位一体の生き生きした心情を養う造形活動を実践していく中で、豊かな感性を育てていきたいと思っています。

# 道しるべ

愛媛・三島幼稚園園長

好井 光江



道しるべ

るようになったそうです。

### お釈迦様の最後の教え

お釈迦様は八〇歳をすぎ、インドのクシナガラの郊外で最後の教えを説かれました。その中の一つをご紹介します。

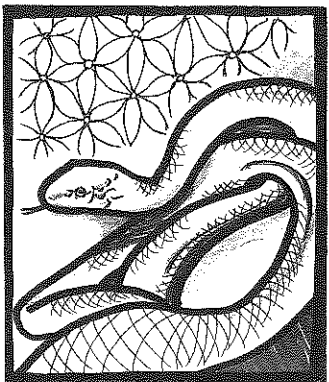
「弟子たちよ、私の終わりはすでに近い。別離も遠いことではない。しかし、いたずらに悲しんではならない。世は無常であり、生まれて死なない者はない。今私の身が朽ちた車のようにこわれるのも、この無常の道理を身をもって示すのである。いたずらに悲しむのをやめて、この無常の道理に気がつき、人の世の真実のすがたに眼を覚まさないければならない。変わるものを変わらせまいとするのは無理な願いである。

煩惱の賊は常におまえたちのすきをうかがって



倒そうとしている。もしおまえたちの部屋に毒蛇が住んでいるのなら、その毒蛇を追い出さない限り、落ちついてその部屋で眠ることはできないであろう。

煩惱の賊は追わなければならない。煩惱の蛇は出さなければならない。おまえたちは慎んでその



心を守るがよい」

『仏教聖典』（公財）仏教伝道協会より）  
お釈迦様は、ここで「無常」あるいは「無常の道理」を説かれました。

### 無常

そういえば私たちは学校で「無常」について習ったことがあります。そうです。「平家物語」の冒頭のところです。私は中学生の頃、これを暗記するように言われました。これを全部言えれば小テストの合格でした。意味もわからず、ひたすら漢字も覚えなくて音だけで覚えました。みなさんはいかがでしたか。

先日、高校生にこの話をしていたら、みんな私と同じようにこの一節を覚えたと言っていました。そこで「ではみんな一緒に言ってみましょう」

とかけ声をかけて始めたところ、最初は元気な声で言っていた彼らでしたが、先に進むにしたがつて、どんどん脱落者が増え、最後は十人中一人だけしか残っていませんでした。

それではこの文章を読んでいるみなさんも一緒にいかがですか。では、どうぞ。

「平家物語」巻第一

祇園精舎

「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり。沙羅雙樹の花の色、盛者必衰のことはりをあらはず。おごれる人も久しからず、只春の世の夢のごとし。たけき者も遂にはほろびぬ、偏に風の前の塵に同じ……」

(日本古典文学大系『平家物語 上』(岩波書店)より)

いかがでしたか。漢字を読んでもこんな意味だったのかと今更考えさせられます。

さて、ここでは「諸行無常」という言葉が使わ



れています。「諸行無常」とは、すべてのものは移り変わっていくという意味です。ちなみに「祇園精舎」とは、お釈迦様に寄進された二つ目の大きなお寺(修行場)でした。先の本の解説では、祇園精舎の中に「無常堂」というお堂があり、病気の僧侶の宿泊療養所となっていました。このお堂の四隅の梁に鐘がかかっています。病気の僧侶のいのちが終わろうとすると、この鐘が自然と鳴り出して、「諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅為樂」の偈(『涅槃經』雪山偈の第一句、和訳したものが「いろはうた」と言われている)を説き出したそうです。死に臨んだ僧侶がそれを聴くと、たちまち苦悩が消え、清涼な楽しみが生じ、極楽浄土に往生することができたとのこと。病僧はこの響きで無常の道理を理解したのでしよう。「祇園精舎の鐘の聲」とは、こんな意味があったそうです。



お釈迦様はこの最後の教えで、すべてのものは移り変わり、自分自身もその無常の世の中で生きている。だから自分もだんだん老いていく、そして自分の死も無常の道理だと、弟子たちに諭されたのでしよう。そしてこの道理に気がつき、真実のすがたに眼を覚まし、メラメラと燃え上がってくる煩惱の火、迷いの火を吹き消し、自分の心からそれを追い出していかなければ悟りの境地にはなれない（幸せにはなれない）と教えてくださいました。

### 私たちは

さて、この教えを現代に生きる私たちはどう受け止めればよいのでしょうか。お釈迦様の生きていた時代は、今から二五〇〇年前。携帯やスマホもなければ、パソコンもありません。そして荷車

ら現代の私たちと二五〇〇年前の人たちとは、なら変わらないのです。したがって私たちはお釈迦様の教えをそのまま、自分の心に受け入れられるのです。

私たちは早くお釈迦様の説かれた「無常の道理」に気づき、眼を見開き、私が、そしてみんなが「幸せ」になる道を探していかなければなりません。みんなで煩惱や悩みをすべて取り払う道を、またそれが取り払えないなら、煩惱を持ったそのままの私をどうしたらよいのか、その道を探し、追い求めていきます。案外その道はきつとあなたのすぐ近くにありますよ。

今年の涅槃会にあたり、私たちに無常の教えを伝えてくださり、私たちを幸せに導いてくださる道を示していただいているお釈迦様に感謝いたします。

はあっても、自動車や電車もありませんでした。ただ、一人の生きている人間としてみれば、なら現代の私たちと変わらない「人」でした。現代の平均寿命は約八〇歳と言われていますが、お釈迦様は八〇歳でお亡くなりになりました。ですか



### 高輪 真澄 (たかなわ まさすみ)

東京・光輪幼稚園園長  
善永寺住職(浄土真宗本願寺派)

略歴 ■ 昭和31年東京に生まれる

昭和57年慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了

武蔵野大学非常勤講師、(公社)日本仏教保育協会常任理事、こどものくに「ひまわり版」編集委員長、浄土真宗本願寺派保育連盟評議員・研修委員を務める。